

組合 NEWS

Faculty and Staff Union of Kanazawa University
金沢大学教職員組合執行委員会
金沢市角間町
Tel.076-262-6009(FAX同じ) / 角間内線2105
E-mail kanazawa@ku-union.org
ホームページ http://www.ku-union.org/

2019年12月16日

通巻1270号

この号の内容

- 学長を表敬訪問
- 書籍紹介・販売
『職場を変える秘密のレシピ47』

学長に執行部交代の挨拶をしてきました



報告 森 祥寛(書記長)

10月1日に、今年度の組合役員を代表して、学長を表敬訪問し、併せて懇談を行ってきました。今回の懇談では、教職員も、労働者として対立するばかりでなく、学長や大学当局とも協力できることがあるのではないかと、という立場から話をしてきました。

一般企業とは異なり、大学、特に国立大学法人では、学長を、私たち労働者のカウンターパートとしての経営者とは言い切れません。学長自身も、文科省や財務省、地方自治体など、もろもろの機関との関係の中では、評価される側であり、予算を切られる側でもあります。本学に配分された運営費交付金やその他について、そのパイの切り分けを行うだけなら、私たちと学長は対立せざるをえません。

しかし、そのパイ自体を大きくするための取組なら、学長とも協力はできるのではないかと考えたのです。実際に、懇談の1ヶ月後の11月1日に開催された財務省の財政制度分科会で、文教・科学技術について話し合われた際の資料（「財政制度分科会

（令和元年11月1日開催）」で検索をするとアクセスできます）を見てみると、思わず笑ってしまうような論理の展開などがなされており、同時に学長や大学当局の行動や対応についても腑に落ちる点も出てきました。

協力できることが…というようなアプローチ自体に反対するご意見もあると思いますが、財政制度分科会の資料から読み取れる財務省の考えなどを踏まえると、私たち自身が「反対、だから駄目」と言うだけでは、なかなか意見を通すことは難しいと感じてしまいます。必要に応じては、学長や大学当局なども味方に引き入れつつ、「ここが問題だから、文科省や財務省へのアピールがあるとしても、こういった点に留意してほしい…」など、大学当局からも譲歩が引き出せるような、そんな対応が必要と思った懇談でした。だからといって、学長に全面的に与することは全くありませんが…。

何にせよ、今後とも、ゼロサム・ゲームにはならないように心がけて、活動に臨んでいきたいと思っています。

『職場環境に関するアンケート』

12月25日まで実施中。回答お待ちしております。

WEBページからの回答も可能です。

QRコードを読み取ってください。



事務・技術職員



看護師



医療技術職員

報告 佐藤正英（前副委員長）

新執行部による学長への表敬訪問の参加者に余裕があるということで、昨年度の執行部の一員ながら、2019年10月1日に学長を表敬訪問してきました。学長への挨拶のあと、少しお時間をいただき学長といくつかの点について意見交換をしてもらいました。私どもの疑問や質問に学長の考えを述べる形で話が進みました。旧執行部の一員であるという気楽さで詳細には聴いておりませんでした。その中で2点ほど覚えている点があります。

1つ目は、授業の英語化についてです。授業の英語化には、すべての分野で一律に英語化するのではなく学類や専攻の特性も考えて導入するべきではという質問に対して、学長からは、「一律に進めるといった覚えはない。もしそのように進んでいるのなら、どこかで『付度』されて、そのようになっているのではないか」ということでした。お話からは現学長には付度が必要ないと言っているように思えました。4月からの学長にもそうであってほしいと思いま

した。

2点目は新年俸制についてです。「新年俸制は『なんちゃって年俸制』で、そちらに移行しても、実質的にいままでと同じである。これは閣議決定されたから仕方なく導入する。」というようなことを言われていたと思います。きっとその通り実害がないと思われたのだと思います。上で決まったことだから「〇〇」をしますの「〇〇」の閾値はどこにあるのか、それとも閾値はなくて、どんな内容でも全て抵抗なく受け入れるのかしら？と思うとちょっと怖くも思いました。きっと害があると思ったら抵抗したのだとは思いますが……。新学長にはそうであってほしいと思いました。

最後に、ただか3名の訪問に対して多くの職員の皆さんが動いてくださり、話している間も立ったまま控えてくださったことには感謝いたします。もっと気楽にお話ができるもいいのではないかと思いましたが……。



『職場を変える秘密のレシピ47』



より良い職場を願う全ての皆さんに贈る、
職場を変えるためのノウハウを体系的に整理し、47の秘訣を抽出



実質賃金は低迷し、ワーキングプアの非正規労働者数も過労死もパワハラ等も、直近データで過去最多。労働者の苦難が年々増えている今こそ労働組合の出番なのですが、組織率の低下を見る限りそう簡単にはいかない状況です。日本と同じように、新自由主義が吹き荒れるアメリカにおいても労働組合運動は低迷していましたが、最低賃金を15ドルに引き上げる運動が全米規模に広がるなど、アメリカの労働組合運動は活性化しています。そこから日本も学ぼうとする運動が起こり、日本労働弁護団によるレイバーノーツのテキスト翻訳本『職場を変える秘密のレシピ47』の出版や、コミュニティーオーガナイズングジャンプのワークショップへの参加などによって、労働組合運動を活性化させようとするチャレンジが少しずつですが生まれています。『KOKKO』 第31号より

★購入を希望される方は組合事務所までご連絡ください。

Tel.076-262-6009 / 角間内線2105 E-mail kanazawa@ku-union.org

販売価格 組合員：1冊500円(税込) 非組合員：1冊1,500円(税込)

